

South Wind

サウスウィンド Sep. 2023 Vol.103

特集

G7宮崎農業大臣会合が若者に与えたインパクト



Contents/ 目次

G7宮崎農業大臣会合が若者に与えたインパクト
～取材記事～..... 2,3,4,5

Hear! Here Voices6

宮崎県国際交流協会ニュース7

INFORMATION8

写真は「G7 宮崎農業大臣会合」会場での様子です。
会場のコンベンションセンターでは、小学生たちがお
出迎えをしました。ウェルカムボードは、県内各地の
小学生たちが手作りしたピーマンの折り紙で製作さ
れています。(写真提供：G7 宮崎農業大臣会合協力
推進協議会事務局)



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<https://www.mif.or.jp>

2023年4月に開催されたG7宮崎農業大臣会合では、県内の小・中学生や高校生が各国大臣等関係者をお迎えしたり、日ごろ学習・研究している成果を発表するなどして活躍しました。関係者からも「宮崎の子供たちはとても素晴らしかった」と大きな評価を得たようです。

今回の会合に関わった宮崎県の若い世代は何を感じ、どんなインパクトを受けたのでしょうか？皆さんに話を聞いてきました。

【小学生】インタビュー1：宮崎市立倉岡小学校 5年1組児童の皆さん

今までと変わったことは？

- ・海外のいろんな国のニュースに関心を持つようになった。
- ・外国のことにももっと関心を持つようになった。
- ・外国のスポーツニュースを見るようになった。

感じたこと・学んだことは？

- ・人と人がふれ合う時には笑顔が大切であることを実感した。
- ・大臣が訪問された時は緊張したけどがんばって笑顔で接することができた。
- ・笑顔で人に接することの大切さや相手の言っていることをきちんと聞くことの大切さがわかった。
- ・大臣を受け入れた際に旗を大きく振って挨拶をしたら、笑顔で答えてくれたことが嬉しかった。
- ・県内の中で選ばれて大臣が来訪してくれて嬉しかった。

将来の夢は？

- ・アメリカでトリマーの仕事をしたい。そのために英語の勉強をがんばりたい。
- ・外国でパティシエとして働きたい。
- ・英語でコミュニケーションができるようになりたい。
- ・海外で平和に貢献できる科学者になりたい。
- ・ナイジェリアにいきたい。
- ・英語がきちんと話することができる教師になりたい。
- ・海外で英語が喋れる優しい医師になりたい。
- ・海外で大活躍する野球選手になりたい。
- ・海外で活躍するステフィン・カリーのようなバスケットボール選手になりたい。
- ・海外で活躍するスポーツ選手になりたい。試合を観た人が笑顔になるような選手になりたい。
- ・海外で患者さんの悩みを優しく聴くことができる薬剤師になりたい。
- ・フランスの大女優“サラ・ベルナール”の伝記を書いてみたい。
- ・海外で活躍するダンサーになりたい。
- ・みんなから応援されるような水泳のトップ選手となって活躍したい。
- ・アメリカのディズニーランドへ行ってみみたい。



宮崎市立倉岡小学校 5年1組児童の皆さんと染矢幸一先生



若者に与えたインパクト

Q1 学んだことは？

Q3 海外で関心のある分野は？

Q5 海外で活躍するために大切なことは？

Q7 その他の感想・意見

Q2 変化したことは？

Q4 海外について考える上で大切なことは？

Q6 海外でやりたいことは？

Q8 校長先生のコメント

【小学生】インタビュー2：宮崎市立古城小学校6年生 稲見さん

A1 「外国の大臣をもてなす側として、“ようこそ、宮崎へ！”の言葉を気持ちを込めて伝えることの大切さを学んだ。事前にみんなで英語やフランス語などで挨拶する練習をしていた。」

A2 「以前は、” 私たちが農業に関してできることは何もない”と消極的に考えていたが、この会合に関わることで、生産者のことを考えるようになり、“今、私たちが出来る事は食品ロスを出さないこと” だと思えるようになった。」

A3 「語学と手話に興味がある。いろいろな国の言葉を手話で伝えられるようになりたい。」

A4 「“世界中の誰ひとりとして取り残さない” ということ。」

A5 「いろいろな人たちとコミュニケーションをとる” ということ。」

A6 「障がいをもっている人を差別しないような教育に貢献したい。」



A7 「会合に参加していた高校生が自分の意見を発言していることがすごいと思った。自分も中学生や高校生になったらそのようになりたいと思った。」

A8 「会場での進行において、予定変更がいくつかあったにも関わらず、生徒たちが臨機応変に対応していた様子を目の当たりにして“子供たちの力は偉大だ”と感じた。」



宮崎市立古城小学校の稲見咲耶さんと土屋貴代校長先生

【小学生】インタビュー3：宮崎市立穆佐小学校5年1組児童の皆さん

A1 「相手を笑顔にする喜びを学んだ。農業の大切さや宮崎はマンゴーやピーマンなどの特産品があることを知った。言葉はわからなくても、思いはつながるということを学んだ。」

A2 「日本の農業は世界の中でも進んでいて、農作物が安全で美しいことが世界に誇れると感じた。外国語活動で英語をもっと覚えたいという気持ちになった。たくさんの外国人とふれ合い仲良くしたいと思うようになった。以前より農業のことを考えるようになり、ニュースを見るようになった。」

A3 「音楽で世界の人たちを幸せにしたい。スポーツの分野で活躍したい。新しいお祭りを創りたい。スイーツなど食べ物に関する分野で活躍したい。政治の分野で活躍したい。人々に役立つような仕事ができるよう学びたい。人々に喜んでもらえるようなパティシエになりたい。医療の分野で活躍したい。」

A4 「①自分の国や自分自身のことについて考えること②みんなのことを考え、人に親切にすること③人の役にたつことや国によって文化が異なってもお互いの意見を分かり合えるこ



と④事故や紛争がなく平和で安全であること、などが大切だと思う」

A5 「外国の人とも楽しく仲良く話し、協力し合うことができるようなコミュニケーション能力。人に役立つようないろいろな知識を身に付けていること。今の勉強をがんばり、さらに海外の知識を身に付けること。」

A6 「日本のいいことを伝えていきたい。英語で歌を歌ってみたい。大谷選手のように二刀流で活躍できるプロ野球選手になりたい。日本のスイーツやパンを食べられるお店をやってみたい。世界中の子ども達が幸せになるような仕事をしてみたい。」



宮崎市立穆佐小学校5年1組児童の皆さん

【高校生】インタビュー6：宮崎県立宮崎農業高等学校 生活文化課生徒の皆さん

A1「他国の人と繋がるためには、英語が流暢に喋れることよりも、伝えたいという気持ちの強さと、身振り手振りを交えて積極的に話しかけることが重要であると学んだ。」

A2「以前は外国人などに自分から声をかける自信はなかった。今回のイベントを通じて自分たちが作ったスイーツを食べってもらうために各国の大臣に話しかけるという経験を通じ、積極的に行動することの重要性を認識し、勉学へのモチベーションも高まった。」

A3「貧困や紛争で苦しんでいる国を支援するために活動したい。今の自分にできることとしては募金活動などに少しでも参加することだと考える。」

A4「SDGs や貧困問題についてもっと知ることが大切だと思う。私達に何が出来るのかを自分なりに真剣に考えて実践していくことが大切だと思う。」



A5「日々の英語の学習や ALT の先生たちと積極的に関わるなど、小さなことから継続的に積み上げていくことが大切だと思った。」

A6「今までやったことがない事にチャレンジしてみたい。例えばワーキングホリデーなど」

A7「誰にでも平等に自分の気持ちをハッキリと伝えられるカッコいい大人になりたい。」



生活文化課生徒の皆さん

【高校生】インタビュー7：宮崎県立宮崎農業高等学校 生産者流通科生徒の皆さん

A1「EUにおいても農業に就業する若い人材が不足しているという課題があるということを知った。海外の高校と日本の高校の農業への取り組み内容の違いも学んだ。」

A2「外国の農業を体験してみたいと思った。自分達が一から紡ぎあげたこと発表するという貴重な経験ができて良かった。発表した後に各国大臣から“一緒に写真をとりましょう！”こちらから“一緒に写真を撮ってもいいですか？”と相互に声掛けするなど、良好なコミュニケーションを取ることができてよかった。」

A7「保育園でお世話になった先生が発表の様子をニュースで見ていて“すごいことしてるね！貴重な体験してるね”といわれて嬉しかった。」

「農業高校は普通科高校で学べない“自分の身を通して体験できることがある”ことが誇れることだと思う。」

A8 井上逸郎先生のコメント

- ・各国の大臣から、“若い世代、特に農業高校の生徒が中心となって欲しい”と激励されたことが印象深い。
- ・人と環境に優しい環境保全型農業を農業高校の生徒が実践していることに各国の大臣が驚かれていた。
- ・生徒が地道にやって積み上げてきたことを自信をもって発表できたことが良かった。

- ・G7 宮崎農業大臣会合での小さな発表であったが、終了後も多くのメディアで取り上げられた。
- ・生徒達が発表した“未利用資源の焼酎粕の有効活用”が、今後の宮崎県農業の重要テーマの一つとして注目されたことは大きな成果であると言える。
- ・他県の農業高校の先生方から“農業高校の素晴らしさをアピールしてくれて良かった”と激励の言葉をいただいたり、多方面にわたり波及効果があったと実感している。



生産者流通科野菜班生徒の皆さんと井上逸郎先生



ラスルマナナ ウンジャニエン ミアニン ハリス さん

マダガスカル共和国の首都、アンタナナリボ出身

2016年4月に留学生として来日

北海道大学大学院経済学院現代経済経営専攻、博士後期課程を修了

2022年4月より、宮崎公立大学にて講師を務める（専門：データサイエンス）。



留学先として日本を選んだ理由を教えてください。

日本との出会いは子どもの頃に見たアニメや漫画でした。「ONE PIECE」や「ドラゴンボール」、「ポケモン」、「名探偵コナン」など、日本のアニメがマダガスカルでも放映されていて、大好きでした。その頃から日本に興味を持っていました。そして留学を考えていた時、日本の文部科学省の国費外国人留学生制度を知り、申請しました。倍率が高く難しいと聞いていたのに、日本に行くことが決まった時は本当に信じられませんでした！

初めて日本に来た時の印象はどうでしたか。大変だったことやカルチャーショックはありましたか。

初めての日本は北海道で、4月だったのですがまだ雪が積もっていてびっくりしました。マダガスカルは最低気温が10度くらいで雪は降りません。寒い！が最初の印象です。

やはり大変だったのは日本語です。子どもの頃に見たアニメを通して日本語の表現をいくつかは知っていましたが、日本に留学して初めて日本語を勉強しました。大学院の授業とは別に日本語の集中クラスを半年受講しましたが、最初はとても大変でした。しかし日本語の勉強を頑張ったおかげで、徐々にゼミの内容や専門用語なども理解できるようになりました。

日本は、子どもの頃から想像していた通りだったので、実は大きなカルチャーショックはありませんでした。しかし、フルーツの値段が高いのには驚きました。マダガスカルでは特に田舎の方に行くと、フルーツが豊富で、道ばたになっている実は取って食べても問題ありません。ただ、日本は農産物の値段がきちんと決められているので、その点ではマダガスカルに比べると農業が大切にされている印象ですね。



北海道にて

マダガスカルについて教えてください。

マダガスカル共和国はアフリカ大陸の南東に位置する島国で、アフリカや東南アジアなどにルーツを持つ多様な民族が暮らしています。フランスの植民地だったので（1960年に独立）、フランス語も通じますが、基本的にマダガスカル語を話します。しかしそのマダガスカル語も民族ごとに方言があります。また、文化や宗教も民族によって様々です。食文化も民族によって多種多様ですが、お米が主食です。その点は日本と似ているかもしれません。朝食にはお粥を食べることが多いです。ご飯に肉や野菜を使ったおかずを何品か食べるというのが一番ポピュラーな食事です。豆もよく食べられます。また、バナナピーズの生産量が世界一で、日本のチョコレートにも使われています。

日本とは教育のシステムが大きく異なります。マダガスカルでは小学校・中学校・高校を卒業するための全国試験があります。試験に受からなければ留年をします。特に高校の卒業試験は難しいです。

宮崎に住んでみていかがですか。

宮崎に初めて来たのが、就職の面接のときでした。2021年の9月だったのですが、コロナ禍ということもあり、人がほとんどいなくて少し驚きました。2022年の4月に宮崎に移住し、しばらく住んでみると、どこに行っても花があることに気がきました。その前に住んでいた札幌にも花はありましたが、宮崎には街中でも様々な種類のカラフルな花が植えてあり、とてもきれいです。

また、宮崎の人々は他の地域に比べるとオープンな気がします。大学でも学生が気軽に話しかけてくれますし、趣味でジャズダンスとヒールダンスを習っているのですが、みんなとても親切です。例えば病院のことなど、生活でわからないこともダンス仲間が教えてくれるのでとてもありがたいです。

宮崎で好きな場所は青島です。宮崎に住んでまだ1年しか経っていないので、行ったことがない場所がたくさんあります。その中で一番行ってみたいのは高千穂です。



青島にて
(Photo by Yukavan photography)

宮崎の皆さんにメッセージをお願いします。

皆さんはマダガスカルと聞くとどのようなイメージでしょうか。「マダガスカル」という映画の世界や、バオバブの木を想像するでしょうか。実はマダガスカルはそういった一つのイメージには当てはまらない、「ダイバーシティ」の国です。熱帯雨林もあれば砂漠もあり、そして何よりも、様々なルーツと文化を持つ人々がいます。

宮崎に来る外国人も様々です。日本が好きで旅行や移住する人がほとんどだと思いますが、外国人が日本の文化とは異なる失礼な行動をすることもあるでしょう。しかしそれは決してわざとではなく、知らないからだと思うのです。そういう時にはぜひ日本の文化やマナーを教えてあげてください。世界にはいろいろな文化があります。様々な人がお互いの文化を尊重しながら共に暮らせる宮崎になると素敵だなと思います。



左上：北海道大学
日本語集中コース
左下：Club The Sea House
宮崎-ダンス
(Photo by Club The Sea House)
右：ひな祭りイベントにて

宮崎県国際交流協会 ニュース

● 次の講座を開催しました。 ●

国際理解講座 フランス編

フランス出身のアレックス・ヘイさんを講師に迎え、「フランスのクレープをつくろう!」を開催しました。親子 8 組にご参加いただき、フランスの食文化や学校についてのお話を聞いた後、みんなでクレープをつくりました。子どもたちからは、「うまくやけてとてもたのしかったです」「世界一おいしいクレープでした!」といった感想をいただきました。



外国人災害サポートボランティア養成講座(日向市)

公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団の高木美奈子さんを講師に迎え、日向市で「外国人災害サポートボランティア養成講座」を開催しました。災害時に外国人が直面する問題や、やさしい日本語の作り方を学んだ後、災害情報や避難所の掲示をやさしい日本語で伝えるワークショップを実施しました。



外国人住民のための日本語講座 対面 初級 1・2・3

県内で暮らす外国人住民が地域で生活していくためには、日本語の学習が必要となります。そこで、基本的な日本語を習得することを目的に「日本語講座初級1・2・3」を開催しています。この講座は日本語教師が教科書を使用し、複数の学習者にスクール形式で日本語の指導をしています。前期と後期の年2回講座を開催しています。



地域日本語教室

県内各地域で、「防災」や「ごみの捨て方」などをテーマに、外国人住民が地域で生活する上で必要な日本語を地域住民と交流をしながら学んでいます。(日本人参加者の声)「始めは英語が苦手なので不安でしたが、日本語がとても上手だったので、何とか伝わり、たくさんお話が出来ました。」(外国人参加者の声)「住む人と一緒に話します。それは楽しいです。みんなはやさしいです。」



外国人住民のための日本語講座 オンライン 初級 1・2・3・初中級

宮崎県では各地域で外国人住民が生活しています。距離が遠くて対面での日本語講座に参加できない人のために、オンラインで日本語学習ができるよう「オンライン日本語講座初級1・2・3・初中級」を開催しています。この講座は日本語教師が教科書を使用し、複数の学習者にスクール形式で日本語の指導をしています。前期と後期の年2回講座を開催しています。



国際ふれあいチャット 前期

6月～8月に、国際ふれあいチャット前期(英語・中国語・韓国語:各全6回)を開催しました。シンガポールや韓国、アメリカ、ニュージーランドなど、計7か国出身の県国際交流員やボランティアにご協力いただき、各国の文化や旅行などをテーマに楽しくおしゃべりをしました。



〈英語〉



〈中国語〉

上記講座の他、「日本語れんしゅう会(週2回・通年)」と「県国際交流員とのおしゃべり会(月1～5回・通年)」も開催しました。

今年度後半も、国際理解や多文化共生、外国人支援に関する様々な講座を計画しています。詳細は、協会のホームページやFacebookでご確認ください。



協会のHPはこちらから!

ちよっぴとひといき

「人の声で届けられる世界」

スタッフ 高柳 香代



みなさんは「ポッドキャスト」を利用していますか。スマートフォンやパソコンから視聴できる保存型の音声コンテンツのことです。専用のアプリで様々な番組やオーディオエピソードを有料や無料で楽しむことができます。

私がこのサービスを知ったのは2005年。当時はあまり関心がなかったのですが、友人から「語学や時事の勉強にとっても便利でおすすめ!」と言われいくつか聞き始め、今では複数の番組を毎日聴いています。

例えば英語や自分が勉強している外国語のニュース番組、5分程度で世界のメгатレンドをわかりやすく解説してくれる番組、英語の文法だけに特化した番組などです。通勤途中に、家事をしながらと「ながら聴き」にはなるのですが、毎日聴いているといろいろな事を知ることができ楽しいです。

「人の声」で届けられるいろいろな世界。今日もまた番組を聴きながら世界を感じています。



INFORMATION

各講座について

【英語・韓国語・中国語チャット】

宮崎在住の外国人ボランティアを囲んで、英語・中国語・韓国語で会話をします。語学のブラッシュアップをしたい人向けの講座です。

【国際理解講座】

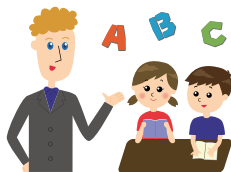
いろいろな国々の方を講師に迎え、その国の歴史や文化、生活の様子をお話していただきます。直接お話を聞くことで、あらたな魅力が発見できます。

【外国人のための日本語講座】

県内在住の外国人の方を対象に日本語講座を対面とオンラインで開催します。

初めて日本語を学ぶ人や、日本語の「読む」「書く」を学びたい人が対象です。

※日時内容については、どの講座も決まり次第HPやブラザニュースでお知らせします。

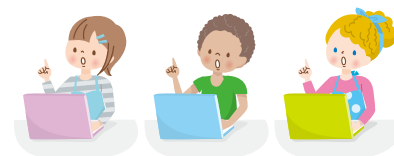


日本語ボランティア紹介

日本語講座や日本語れんしゅう会に参加できない方に、日本語ボランティアを紹介します。学習場所や時間、内容は当人同士で決めます。

【対象】 宮崎県に住む外国人

【問い合わせ】 (公財)宮崎県国際交流協会



みやざき外国人サポートセンターからのお知らせ

みやざき外国人サポートセンターでは、県内在住の外国人のみなさんからの生活に関する相談を対面・電話・メール・オンライン(ZOOM)で受け付けています。

詳しくは下記までお問い合わせください。

【問い合わせ】 みやざき外国人サポートセンター

T E L : 0985-41-5901 F A X : 0985-41-5902

E-mail : support@mif.or.jp



Website



Facebook



Instagram

◆ 賛助会員 入会のご案内 ◆

会 費：個人会員 年間 1口 2,000円 団体会員 年間 1口 10,000円

特 典：協会発行の定期刊行物「ブラザニュース(日・英・中・韓)」、「South Wind」等の提供、協会開催事業への先行案内・優先参加、協会開催講座の参加割引、協会HPから団体HPにリンク可能(希望団体のみ)



South Wind

サウスウィンド
Sep. 2023 Vol. 103

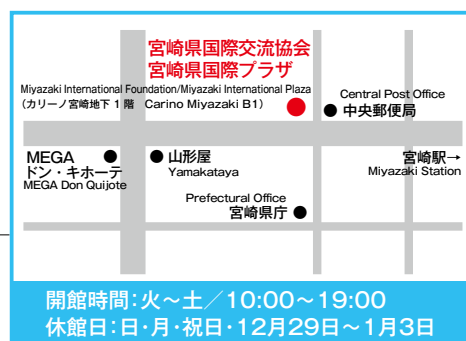
企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第103号 2023年9月発行

〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512

● URL <https://www.mif.or.jp/> ● E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしております。
また、国際交流に関する話題や体験談、意見なども協会にお寄せください。本誌に対する要望もお待ちしております。



開館時間：火～土／10:00～19:00
休館日：日・月・祝日・12月29日～1月3日